

明倫の里 城北

# 未来へ向けたまちづくり



城北コミュニティ

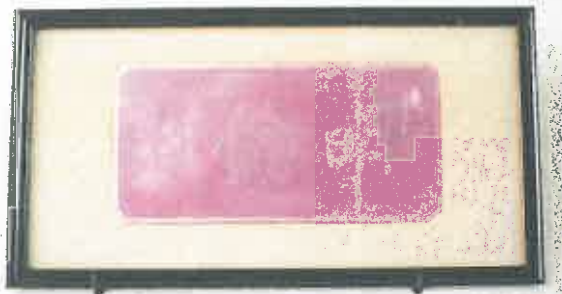
# 明倫の里

城北小学校は、寛政6年（1794年）8月藩校として創立された正明館と文政8年（1825年）10月に創立された敬止堂を合併して、明治3年（1870年）に開学した「明倫館」を前身とする。

明治5年丸亀郷校、6年丸亀第一小学校、のちに亀湾小学校となり、19年ここ瓦町に移り、丸亀小学校となった。明治20年丸亀尋常小学校と改称し、5月28日記念式典を挙げ、この日を創立の日と定めた。

その後、城北尋常小学校、城北国民学校、城北小学校と校名は幾たびか変わったが、百八十余年にわたって受け継がれた明倫（めいりん）の教え、人として道を明らかにするという藩校時代からの精神は今もここに生き続けている。

明倫の額



城北小学校100周年記念碑



# はじめに

現在、少子高齢化や人口減少が進み、わが街も空き家が目立つようになりました。しかし住み慣れた地域で誰もが安心安全な生活が送れる地域社会の充実を目指し、支え合い今後への取り組みに対して、決意を新たにするものです。

城北コミュニティ「明倫の里 城北」は平成10年5月、丸亀市内15番目のコミュニティとして設立されました。「城北地区住民の自主性を尊重し、信頼に基づく生活共同体として、快適で安全な環境、健康で文化的な潤いある町づくりを進める」ことを目的としています。

## ■幅広い活動として

1. 社会福祉の推進及びコミュニティづくり
2. 環境美化への意識向上と対策の推進
3. 健康づくり運動の推進
4. 教育文化活動と健全な青少年育成の推進
5. 啓発活動の推進
6. 生活改善及び保健栄養思想の普及
7. 自治会・関係機関・諸団体との連絡調整並びに諸事業に対する協力
8. その他、城北コミュニティの目的達成に必要な事業

を実施しています。

地域の活性化を願って毎年、「城北明倫まつり」と「ほくほくふれあいまつり」を開催します。まちづくりの将来ビジョンとしては、城北地区の特色を活かし、「自然と歴史が調和し、人が輝く田園都市」、すべてのものが協力してまちを創りあげる「協創」を基本理念に、みんなが力を合わせて世代を超えて明日の「まちづくり」に立ち向かっていきます。

明倫の里 城北  
会長 細谷 達則

# 目次

## 城北コミュニティ「明倫の里 城北」

---

### 概要と歴史

#### わがまちの概要

- (1) 古地図に見るわがまち ..... 6
- (2) 城北地区のなりたちとマップ ..... 6
- (3) 人口構成及び人口動態 ..... 7

わがまちの歴史 ..... 9

## 城北コミュニティ「明倫の里 城北」

---

### まちづくりのプラン

#### まちづくりのプラン

- (1) 地域の特徴と現状 ..... 16
- (2) 将来像を実現するプラン ..... 16

#### まちづくり実行計画

- 【総務部】 地域住民との「ふれあい」及び「活性化」 ..... 17
- 【環境部】 住みよいまち安全・安心をつくりだす協創へのまちづくり ..... 18
- 【福祉部】 住み慣れた地域で健やかに暮らす「和・輪・話を大切にす地域社会」 ..... 19
- 【保健部】 健やかなこころとからだをつくり自分で守り育てる自分の健康 ..... 20
- 【文化部】 身近な文化や社会問題を理解するとともに、人権意識を高める ..... 21
- 【広報部】 情報社会に照らす、人と人の協創 ..... 22
- 【体育部】 運動で、人が輝く文化都市 ..... 22
- 【城北婦人会】 女性の力で安全・安心な地域社会の創造実現を目指す ..... 23
- 【城北老人会】 老人福祉法の理念に基づき、地域老人福祉増進を推進する ..... 24
- まちづくりの計画策定にあたって地域の人達からだされた意見 ..... 24

城北地区まちづくり計画策定委員会組織図 ..... 26

城北地区まちづくり計画策定担当者 ..... 26

コミュニティ「明倫の里 城北」構成団体 ..... 28



城北コミュニティ「明倫の里 城北」

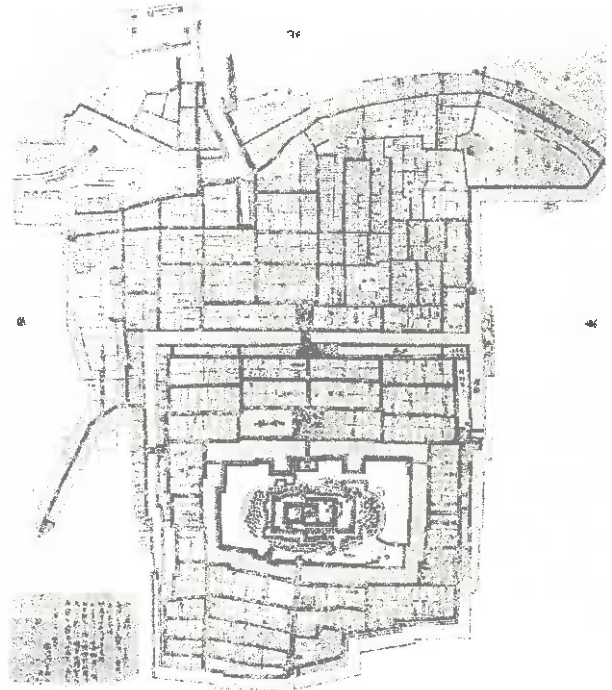
# 概要と歴史

# わがまちの概要

## (1) 古地図に見るわがまち

約380年前の慶長2年(1597年)に生駒家が、丸亀城下の街づくりを始め、寛永18年(1642年)新しく城主となった山崎家によって、城下町丸亀の輪郭が整えられた。

さらに山崎家の後を受けて、万治元年(1658年)に入府した京極家が、治世200年余で現在の丸亀を形成した。



丸亀城郭図

## (2) 城北地区のなりたち



丸亀城歴史エリア景観構造図

城北地区は丸亀城の東北に位置し、東に土器川が流れ、南北に長い地形である。南より大手町、城東町、土居町、風袋町、葎町、魚屋町、宗古町、米屋町、松屋町、北平山町、御供所町、富士見町からなっている。戦後、東練兵場跡には香川労災病院が建ち、住宅地が整備され、東汐入川は埋め立てられて緑道公園となった。鉄道も電化されて高架化され、それに伴いJR丸亀駅から東の両側に市道がつくられ、交通事情は様変わりした。

また、富士見町は埋め立てが進み、現在、浜街道の整備が進んでいる。競艇場ではナイターが実施され、城北地区は大きく変貌した。その一方で国土交通省から香川県内で唯一、御供所地区が重点密集市街地に指定され、市として大規模地震による火災延焼を防ぐための調査は完了した。

### (3) 人口構成及び人口動態

丸亀市の総人口は平成17年の11万1343人から、平成21年には11万1977人と増えているが、城北地区は平成17年の7075人から平成21年には6665人と逆に減少している。

また、年齢別で見ると、0～14歳の年少人口は、丸亀市全体で1万6394人、65歳以上が3万5598人であるのに対して、城北地区は0～14歳が932人、65歳以上は2912人となっており、65歳以上の老年人口の加速的な増加が進み、いわゆる「少子高齢化」が確実に進行している。

さらに、年齢別比率で見ると、丸亀市は平成21年に65歳以上が32%、19歳以下が19.4%、

城北地区は65歳以上が40.6%、19歳以下が17.4%となっており、老年層の占める割合が年々増加の一途をたどっている。この傾向は将来も変わらないとみられる。

世帯人口では、丸亀市では平成17年の2.56人から平成21年には2.46人に減少しているのに対して城北では2.23人から2.26人と若干増加しているものの、高齢化に核家族化が拍車をかけている。

以上のことから人口の減少と65歳以上の高齢者の増加傾向に歯止めが効かなくなっており、この現象は今後も続く見通しで、大きな課題となっている。

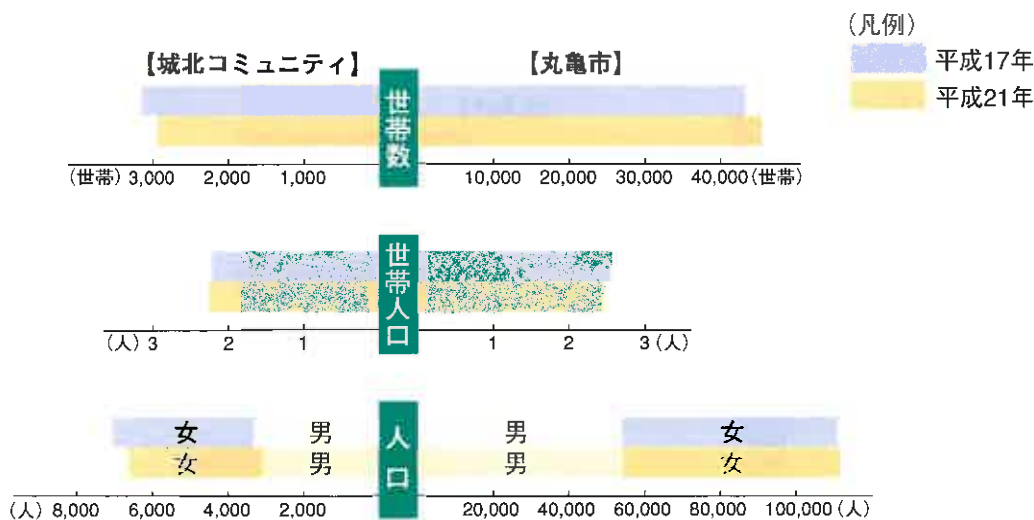
#### ●世帯数と人口

##### 城北コミュニティ

	世帯数	世帯人口	人口	男	女
平成17年	3,173	2.23	7,075	3,294	3,781
平成21年	2,950	2.26	6,665	3,065	3,600
対比	△223	0.03	△410	△229	△181

##### 丸亀市

	世帯数	世帯人口	人口	男	女
平成17年	43,425	2.56	111,343	53,855	57,488
平成21年	45,518	2.46	111,977	54,265	57,712
対比	2,093	△0.10	634	410	224





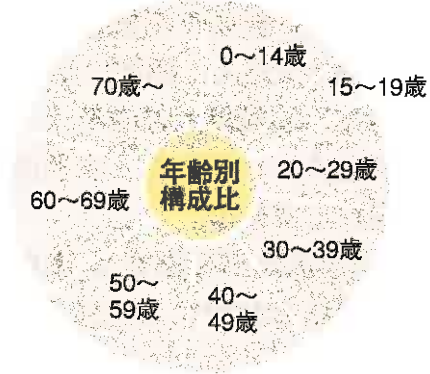
## ●年齢別人口と構成比

### 城北コミュニティ

0～14歳		15～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳	
932		318		698		946		793	
13.0%		4.4%		9.7%		13.2%		11.1%	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
502	430	156	162	353	345	467	479	383	410

50～59歳		60～69歳		70歳～	
985		1,057		1,443	
13.7%		14.7%		20.1%	
男	女	男	女	男	女
492	493	487	570	543	900

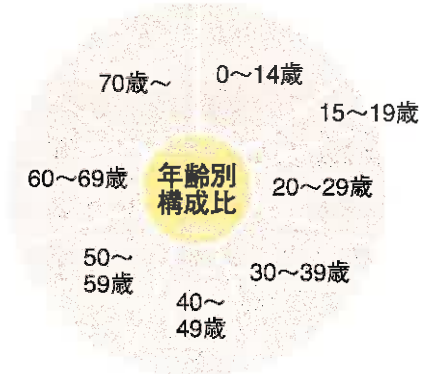


### 丸亀市

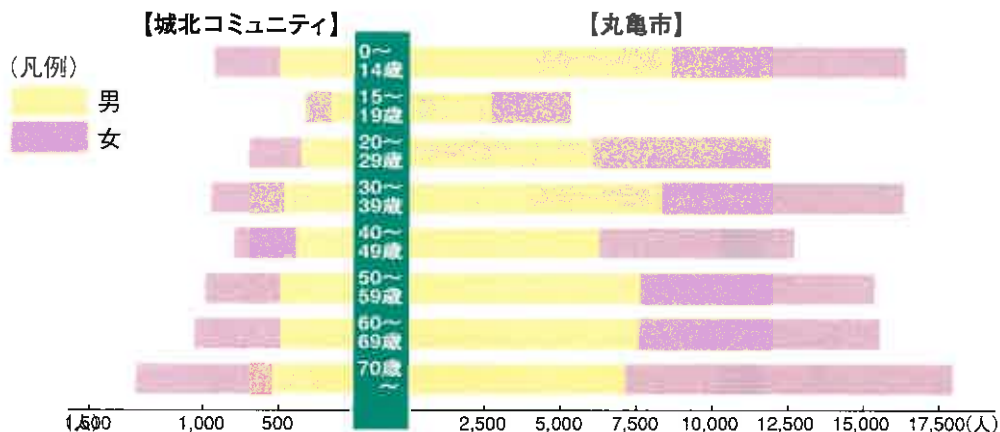
0～14歳		15～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳	
16,394		5,278		11,859		16,332		12,708	
14.7%		4.7%		10.6%		14.7%		11.4%	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
8,614	7,780	2,710	2,568	6,028	5,831	8,302	8,030	6,273	6,435

50～59歳		60～69歳		70歳～	
15,366		15,566		17,973	
13.8%		14.0%		16.1%	
男	女	男	女	男	女
7,609	7,757	7,581	7,985	7,148	10,825



### 年齢別人口



# わがまちの歴史

## 風袋町

山崎氏時代は畑であった。山崎氏の後に入封した京極氏は、前任地竜野から連れてきた普代の下級武士たちを城の外堀の東北に移住させ、「普代町」と言っていたが、後に今の「風袋町」になったとされる。

また、この町には下級武士が多く住んでいたため、「雑賀丁」「鉄砲丁」「餌護(えご)丁」「中ノ丁」などと呼ばれていた。



緑道公園

## 瓦町

京極氏入封により、その施策として瓦職人をこの地に移住させたのが町名の由来といわれている。その昔は土居村の庄屋の管理地であったが、度々、町の所管が代わり、問題になったこともある。

神社仏閣では、「専念寺」がある。真宗西本願寺派の寺で、山崎氏に伴いこの地に移った。他に「宝津寺」や妙見宮と呼ばれる「産巢日神社」がある。

また、「市立城北小学校」は、明治5年に「丸亀郷校」として開校した丸亀では一番古い歴史を持つ小学校で、昭和62年5月に創立百周年を迎えた。

校長室には、5代藩主「京極高中」の自



産巢日神社(妙見宮)

筆「明倫」の額が掲げられている。児童数は387人と減少している。



市立城北小学校

## 葭町

この町は京極時代になってできた町で、荒れ地が多くて葭(かや)や葦(あし)などが生い茂る湿地帯だった。それを開墾して形成された町が「葭町」である。

神社仏閣では、まず「正玄寺」が挙げられる。ここには、金子正則元知事の墓がある。



正玄寺

本行寺は、「了玄院日蓮聖人」が開祖で、万治元年（1658年）に開山したと伝えられており、馬術の名手で丸亀藩家老だった「佐脇大学」の墓もここにある。

## 米屋町

町名の由来は、米屋が多く集まっていたからと言われている。隣接する「通町」と交差する商業地として発展していった町で、京極氏入封以降につくられ、幕末には後に重要産業となった総（かせ）糸生産の中心地の一つとなった。

明治31年（1889年）8月「丸亀実業協会」が創立されて、44年12月「丸亀商工会」に改組された。事務所は南条町におかれていたが、大正12年8月に米屋町の丸亀商工会館建築地で同会事務所兼商品陳列場の地鎮祭が行われた。

## 松屋町

この町の由来は、昔見事な「老松」があり、「松屋」という旧家があって、その名をとって「松屋町」となったとか、見事な「五葉松」のあった「撫松軒」という茶室があったとか、いろいろ言い伝えられているが、何れも定かではない。

## 魚屋町

京極氏の入封以降に形成された町で、元禄10年（1697年）の城下図には町の通りに面して数軒の魚屋が立ち並んでおり、宇多津町の「三浦」から移住した漁民が魚を販売したのが、町名となった。

また、現在の吉田病院あたりに、四国で最初に種痘を行った町医師「河田雄禎」の診療所があり、治療を乞う人たちが早朝から門前に列をつくったと言われている。

## 宗古町

京極氏の入封以降に形成された町で、元々は「宗幸が町」と呼ばれていたのが、後に「幸」を「古」と改めて「宗古町」となった。丸亀城下の商業地として発展した。

神社仏閣として「浄通寺」と呼ばれる寺があり、真宗興正派で、慶長年間（1596～1615年）、城南に建立され、元文5年（1740年）に宗古町へと移り、平成元年（1989年）に土器町へ移って現在に至っている。

## 富士見町

富士見町は城北地域で一番北側に位置し、瀬戸内海に最も近い。大正13年から海岸線の一部が埋め立てられ、その後、昭和7年頃から次々と海を埋め立ててできた昭和の新しい町である。



整備された漁港

東は土器川、西は東汐入川、北は海で、海や川に緑が深い。そうした地理的な立地条件を生かして昭和27年4月に市営の「丸亀競艇場」が誕生した。その年の10月31日に初レースが開催され、全国6番目の公営競艇場となった。

その売り上げは市の財政に貢献してきたが、近年の景気後退で低迷していった。市が照明設備を設置し、平成21年4月にブルーナイターとして夜間レースが可能となり、最近では活力を取り戻している。



丸亀競艇場

さぬき浜街道に昭和51年9月「富士見大橋」、昭和56年11月には上り線の「土器川大橋」がそれぞれ完成し、丸亀の幹線道路が著しく整備された。

## 土居町

土居町は一丁目から三丁目まであり、その昔、鷺足郡（うたぐん）津野郷土居村と呼ばれた。その名は、土を練り固めた塀がある土居構えのある屋敷があったところに由来するという。

古地図（城北小学校百年史掲載）を見ると、東汐入川と土器川に挟まれた細長い町で、南から清水・出口・高木・浜田・引田・渡場と小さな集落であった。今は懐かしい「琴参電車」の線路跡に旧国道11号（現在は県道33号）が町の真ん中を貫通し、南北に分断された。

土居町一丁目はその昔、土器川が度々決壊して大洪水となり、多大な被害がでた。しかし、地下水が湧き出る所が多く、丸亀市最初の水源地となった。近くには「清水



旧水源地

大明神」があり、この地の守り神として大切に祭られている。昭和60年に改築して「二丁目自治会館」が併設され、町民の守護神として手厚く信奉されている。また他に「顕正寺」、「久品院」という古くからの寺院がある。

土居町二丁目には、旧陸軍の練兵場にあつた「高木神社」を現在地に移し、昭和60年に改築して「二丁目自治会館」が併設され、町民の守護神として手厚く信奉されている。また他に「顕正寺」、「久品院」という古くからの寺院もある。



高木神社

土居町三丁目は昔、東汐入川の渡し場があり、土器川では大雨になると板の橋が流される被害を被っていた。寛永時代の末、当時の城主山崎家治は城の鬼門に当たるこの地に、お堂「十方庵」を建立した。時が移り、この十方庵は平成20年に道路拡幅のため、現在地に「三丁目自治会館」を併設して立て替えられた。



十方庵

## 城東町

城東町は一丁目から三丁目まであり、西はお城の内堀、東は清水川に挟まれている。旧藩時代には内堀のすぐ東が「五番丁」で侍屋敷があり、明治7年の徴兵制により「歩兵第十二連隊」が創設された時、作業場となり、土居村の出口・高木の大部分が「東練兵場」となった。戦後に市が軍用地の払い下げを受けて、新しい町「城東町」が誕生した。

その後は農地から作業場跡は閑静な住宅地となり、昭和30年に東練兵場跡の「城東町」の中心部に中・西讃地域の基幹病院となる「香川労災病院」が創設された。当初は「内科」「外科」を中心に40床の病院だったが、平成に至る現在まで、その規模を拡大しつつ、平成21年4月には「地域医療連携支援病院」として国の承認を受け、文字どおり「地域医療のリーディング病院」として中・西讃地域の人々の命を守る拠点病院として大きな役割を果たしている。



香川労災病院

## 御供所町

讃岐一国の領主となった生駒親正は文禄元年(1592年)、秀吉の命を受け、宇多津町の平山・北浦・御供所の三浦(みうら)の船方衆や水夫、漁師を朝鮮戦役に従事させた。その功績により三百石を与え、生駒氏が慶長6年(1601年)、丸亀城を築いた時に三浦からこの地に移住させ、出身地の名をとり「御

供所」「北平山」「西平山」と呼んだ。

その後、江戸時代を通じて住民の多くが漁業に従事し、丸亀藩きっての漁業の中心地となった。また、東汐入川は城の外堀とつながり城下の防衛線とされ、町内には二か所の番所が置かれた。

また、生駒氏は築城の際、要衝の場所に山城として寺を配置し、平山、北浦、御供所の三浦衆の旦那寺を現在の地に移した。「真光寺」もその中の一つで、城の鬼門を鎮護せしめる寺としての一翼を担った。この「真光寺」は、讃岐三十三観音霊場第二十八番札所として、今も巡拝者が絶えない。

また、本堂と客殿の間を通り抜けると、大蛇がとぐろを巻いたような松の老木があり、これが「翠玉の松」と呼ばれて親しまれている。また、一夜で花をつけたといういわれもあり、「師弟の松」とも呼ばれている。その他、三頭身大の「大頭地藏(だいづじぞう)菩薩」も祭られ、頭の病に靈験あらたかとして尊ばれている。



翠玉の松

「木里神社」は京極時代に下津井より還宮されたとされる神社である。社の中央には「海灘のお守り札」が、また、左には「タヌキ」、右には「貴船の稲荷宮」、さらには、右下に「不動明王」が祭られている。「浪切不動明王」(4か所)、「稲荷神社」(3か所)、「多加宮(タヌキ)大王竜王」(3か所)、「天満宮」、

「海灘供養地蔵」、「恵比寿神社」地元の漁民は海の安全と豊漁を祈り、信仰してきた。

中でも、「恵比寿神社」は、堺より分社されて江戸時代に建立されたが、大正に入って騒動で各地に分散し、御供所より西白方まで13か所に建立されたと言われている。



恵比須神社

近代になり、明治29年11月、御供所町一丁目に丸亀税務署の始まりとして「丸亀税務管理局」が置かれ、香川県はもとより、徳島、高知両県の事務所も管理役所が置かれた。明治35年には「税務監督局」と改称し、四国全体を管理する税務監督局となる。後に現在の「城北コミュニティセンター」が移った。当時は桜並木のある税務署として親しまれていた。

## 北平山町

北平山町は、御供所町と同じく、生駒氏が丸亀城の築城に際し、鶴足郡三浦の水夫288人に米一石をあて与えて丸亀城北方の地に移住させた。

この時期「定福寺(弥勒院)」「大善院」「吉祥院」「威徳寺」などがこの地に移され、丸亀城の鎮護として鬼門に当たる北東に並んで建立されている。

当地(北平山)は西平山とともに、次第に商業化され、金比羅参詣の隆盛とともに繁栄していった。このように、生駒氏によ



吉祥院

る水軍の担い手確保と、寺院群の配置等による城下町形成の一環として生まれた。

また、北平山町には戦前戦後を通して、丸亀の医療の中心的な存在であった「県立丸亀病院」があった。前身は「株式会社丸亀中央病院」として、大正12年に開設された。昭和59年に土器町東の足達塩田跡地に充実した新病院として開院された。跡地には、公共施設の建設が予定されている。



旧丸亀病院跡地

以上、城北地区の12の町の歴史を紐解いてきたが、いずれも優れた歴史に彩られた町であり、そこに暮らす人々の生き様が垣間見える。

丸亀市が目指している将来ビジョン「自然と歴史が調和し、人が輝く田園都市」をすべての住民が協力して町をつくりあげる「協創」を理念に、わがまち「明倫の里 城北」のまちづくりに立ち向かっていきたい。



城北コミュニティ「明倫の里 城北」  
まちづくりのプラン



# まちづくりのプラン

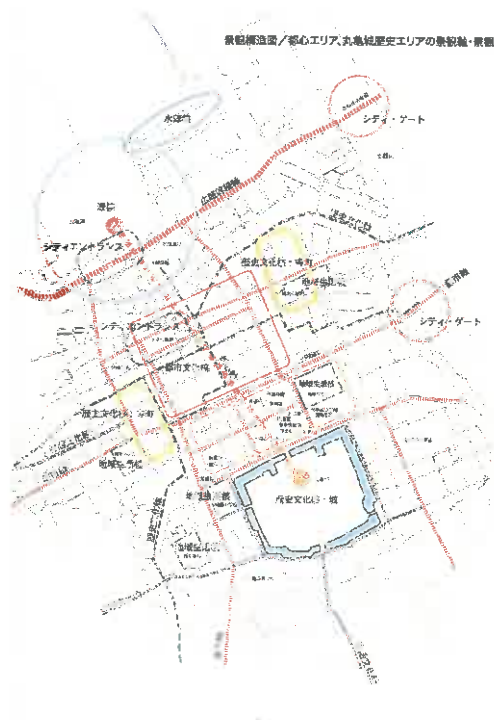
## (1) 地域の特色と現状

丸亀市は多様な地域の特性と恵まれた温暖な気候、そこから生まれる優れた文化と豊かな風土に育まれた地域であり、中でも「城北コミュニティ」は「歴史と文化」そして利便性の高い「住環境」を持つ魅力ある地域と言える。

南には「丸亀城」や閑静な「住宅街」また地域の人たちの命を守る「大病院」があり、さらに北には瀬戸内を代表する豊かな「海岸線」を持ち、地理的にも非常に豊かなエリアとなっている。

しかし、中心地では少子高齢化が加速的に進み、商業地域での人口減少、商店街の人口の空洞化等、地域社会の調和が崩れかけている。

そうした中、この「人口減少」と「高齢化社会」に対応し、自然環境と調和の取れた「住みよいまちづくり」が急務となっている。



丸亀城歴史エリア景観構造図

## (2) 将来像を実現するプラン

### 城北コミュニティの将来像（協創で広がるまち）

- 自然と歴史が調和し、人が輝く文化都市へのまちづくり
- 自然や歴史を活かし、人と人の協創へのまちづくり
- 住みよいまち・安全安心をつくりだす協創へのまちづくり



城北コミュニティセンター



安全パトロール

# 「明倫の里 城北」のまちづくり実行計画

## 地域住民との「ふれあい」及び「活性化」

### 総務部

コミュニティ組織運営の中核的な部会として、「まちづくり計画」を進めてゆく。常に地域住民と連携し、相互扶助・自治活動の充実を図り、さらに相互の親睦を広め、防災対策や地域の活性化の推進に努める。また、地域の情報を広く集め、行政の諸施策に地域住民の意見として反映させ「まちづくり」を進めてゆく。

### 1) 城北ほくほくふれあいまつり

#### 【現状】

毎年10月の第2日曜日、城北小学校において、地域内の小中学校や幼稚園、保育所の子どもたちや地域住民が参加する各種競技を運動場で開催している。また地域内の各種団体（老人会・青年会・PTA等）によるバザーを行っている。部会などによる独居老人等への軽食のもてなし、さらには屋内催し物として体育館で児童・生徒の作品展及び各種団体による創作作品の展示、健康福祉に関する展示物紹介などを通して、少子高齢化社会に対応したまちづくりと地域の活性化の推進に努めている。

#### 【今後の取組】

- \* 屋内展示物の充実
- \* 屋外競技種目の見直し
- \* 参加者等動員数の向上
- \* 広報の工夫
- \* 年ごとに掲げる「テーマ」に沿った企画の検討
- \* 各施策の検証



城北ほくほくふれあいまつり

### 2) 城北明倫まつり

#### 【現状】

毎年3月第1日曜日、地域の住民の「生き甲斐」と「生涯学習」の支援、「ひきこもり高齢者」の解消など、明るいまちづくりと地域の活性化をめざして屋内では各種講座等で学んだ「趣味作品」の展示と発表・地元保育所等による遊戯発表など、屋外の催し物としては各種団体による「バザー」で地域住民との「ふれあい」と「生き甲斐」づくりを後押ししている。

#### 【今後の取組】

- \* PR活動の強化
- \* 舞台発表の充実
- \* 展示物の充実
- \* 各種催しと展示の検証



城北明倫まつり

### 3) 各種研修旅行

#### 【現状】

コミュニティ全体の研修として、隔年で日帰りと一泊の旅行をしている。目的として

地域内住民の交流と親睦を深める事や、他地域の視察などをとおして、まちづくりへの地域の活性化と人と人のふれあいを大切にする意識を高めることである。

#### 【今後の取組】

- \*テーマにあわせた研修先の検討
- \*参加の呼びかけ
- \*研修成果をコミュニティ活動に生かす施策の企画



研修旅行（奈良）

## 4) 自治会組織の推進

#### 【現状】

集合住宅では加入率が低く、地域住民とのふれあいもうすく、行事等にも参加が少ない。未加入者への入会の働きかけは各自治会において鋭意取り組んでいるが、未加入者の無関心、自治体等への不信感や入会の効力がないとの思いが強く、再三再四呼びかけてはいるが成果が上がっていない。

地域の働きかけやふれあいを通して組織づくりに努めている。

#### 【今後の取組】

- \*こまめに辛抱強く説得に努める
- \*広報紙等の配布で自治会への入会や組織化のメリットの説明
- \*各種行事への参加呼びかけ
- \*行政と協力して入会を働きかける
- \*自治会長研修の強化

## 住みよいまち安全安心をつくりだす協創へのまちづくり

### 環境部

行政・各種組織を見ても、縦割りの構想や計画、取り組みは現在の社会に適しているとは思えない。地域全体として具体的な活動項目を決め、枠を超えた内容を盛り込み、コミュニティが将来へ向けて目標とするまちづくり計画を策定することが必要と考える。

## 1) 自主防災活動の推進

#### 【現状】

近い将来、起きると予想されている南海・東南海地震を想定した対応が急務であり、地域全体での対応が求められている。地域による多少の違いはあるが避難経路の家屋は老朽化し、道路幅は狭い。市が全体の防災計画を示し、将来的に住民に協力を仰ぐ必要もある。私達も地域住民の意識を高めていくことが大事である。

#### 【今後の取組】

- \*自主防災組織の確立
- \*防災拠点の整備



自主防災訓練

- \*防災資材や備品の確保
- \*住民の防災意識の向上
- \*危険個所を認識できる地域防災・避難マップの作成
- \*高齢者や身体の不自由な人及び外国の方々への避難サポートに必要な情報収集

## 2) 防犯パトロールのあり方

### 【現状】

各地区や学校等で不審者対応訓練や防犯教室を開催し、防犯パトロールを実施するなど犯罪抑止に努めている。パトロール方法として、登校日はすべて通学路を中心に定点見守り・巡回パトロール（徒歩・自転車・乗用車）・付き添い下校・交通指導（随時）など各人に合った方法で活動している。また、危険場所の見守りや整備も行っている。

### 【今後の取組】

- \* 過去の事件・事故発生場所を含めた防犯マップの作成
- \* パトロール隊員の拡充と意識改革
- \* 住民の危機管理意識の高揚
- \* 公園見守り隊の拡充

## 3) ごみの不法投棄防止など地域の環境整備

### 【現状】

世界規模で温暖化防止への取り組みが急

務とされている今、城北地区でも緑を増やして、少しでも温暖化防止に協力したいが「庭がない・用具がない・したことがない」等の理由で実施してくれる家庭が少ない。また、河川敷等へのごみの不法投棄が目につく。

### 【今後の取組】

- \* 親子ハゼつり大会などのイベントを通じた地域環境の美化運動の推進
- \* 自主的な清掃活動への参加の呼びかけ
- \* 緑のカーテン作りなどによる温暖化防止活動への参加
- \* 地域環境の美化運動推進を目指した自宅周辺での自主的な清掃活動の実践



親子ハゼつり大会

## 住み慣れた地域で健やかに暮らす「和・輪・話を大切に作る地域社会」

### 福祉部

住み慣れた地域でみんなが楽しく・健やかに暮らしていくことを願い、3つの「和・輪・話を大切に作る地域社会」をスローガンとして、老人福祉・障がい福祉・児童福祉に取り組んでいく。

## 1) 老人福祉対策

### 【現状】

独居老人の多くは、近隣の方々との交流が少ない傾向にあり、病気等の安否確認ができない状況が多発している。また、高齢になるほど転倒等を危惧し外出を控え、屋内に籠る傾向がある。寝たきり老人は、家族だけでの外出はほとんど不可能に近い状況で、認知症障がい老人（最近では若年者も多い）には、外出時に突然、自分の状態が

分からなくなり、行方不明になる危惧もあり、家族の介護の負担も大きい。



福祉部会研修

### 【今後の取組】

- \*昔の向こう三軒両隣の付き合いが地域によって無くなっている。隣り近所の輪番による見回り実施
- \*自治会のみんなで話し合うことによる問題解決の体制づくり

## 2) 障がい者福祉対策

### 【現状】

障がい者に、健常者と同じ条件を作り出すことが大切で、すなわち、障がい者の当たり前な暮らしを実現するため、いかに受け止めるとよいのか、また、それを受け止める当たりの社会を創造していくには、何を援助すべきか、何ができるかを地域社会で検討すべきである。

### 【今後の取組】

- \*障がい者(児)と同じ目線に立って見守り、日常的な声かけや挨拶の実施
- \*悩み事・心配事の相談に対しても誠意を持って対応できる地域の実現
- \*福祉施設等の状況を知識として身につけ、対応できる人材の育成

## 3) 児童福祉対策

### 【現状】

近年、高齢化と同時に社会の少子化が急速に進行している。また、核家族化に伴い子どもを産み育てにくい社会状況にある。一方では、家族等による児童虐待が増加する傾向にあり、また、車社会や不審者などの危険要因により、児童生徒等が屋外での遊びを敬遠し、家庭内やゲームセンター等での遊びに変化している。

### 【今後の取組】

- \*子育ては親だけでなく、みんなでおせっかい型支援の確立と推進
- \*コミュニティを語らいの場にし、高齢者、乳幼児家庭などへの相談体制の推進
- \*まちづくり会議等に児童生徒を参加させ、子どもの立場からの意見を聞き、反映させる体制づくり
- \*異年齢間の交流の実施(高齢者と小学生等)
- \*緊急時等に母親が乳幼児を一時安心して預けられる制度の構築

## 健やかなところとからだをつくり自分で守り育てる自分の健康

### 保健部

健康相談や健康教室及びバランス料理教室で色々なことを学び、平日頃から自分で守り育てるところとからだの健康を行っていく。

## 1) 健康相談

### 【現状】

自治会で回覧周知を行い、9か所の自治会館等で開催している。病院では相談しにくいことも保健師に相談したり、体脂肪、検尿、血圧測定を実施したりしている。現状は各会場20人程度が参加している。

### 【今後の取組】

- \*声かけを実施し、参加人数を20人から40人程度に増やす

- \*骨密度測定及び血流測定等を取り入れていく

## 2) 健康教室及びバランス料理教室

### 【現状】

部会員、愛育班、高齢者同士の声かけ、コミュニティセンターの玄関のポスターで周知しているが、60歳以上の女性中心の参加が多い。

### 【今後の取組】

- \*健康教室に若い世代、男性も参加できる



料理教室

内容にすることの検討

- \*健康教室等の案内を張り出す掲示板づくりの設置を検討
- \*若い世代、子どものための食育料理教室、男性料理教室の検討

### 3) 愛育班活動及び地域の子育て

#### 【現状】

参加者が減少している中、毎月第3金曜日に子育て支援センターから派遣された先生の指導による工作や親子ふれあい、身長・

体重測定、また、保健師による健康相談を実施している。

#### 【今後の取組】

- \*地域に住む母子に、みんなで声かけを実施
- \*入会していない子も参加できる行事を1回/年を2回/年に企画する
- \*お城でのオリエンテーリング・親子遊び、クリスマス会の実施など内容の充実
- \*高齢者とのふれあい遊びなど交流の企画
- \*伝承料理や遊び・囲碁・将棋などの指導



親子料理教室

## 身近な文化や社会問題を理解するとともに、人権意識を高める

### 文化 部

身近な文化の伝承や生涯学習の支援を通じて、こころ豊かな生活が営まれるよう、各種生涯学習クラブの交流を行い文化活動を支援するとともに、各種行事を行い地域の活性化をはかる。

### 1) 地域いきいき講座

#### 【現状】

健康づくり、環境問題、子育て、高齢者福祉、災害防止、人権などの身近なテーマについて年間3回講師を招き、話を聞く中でそれらの内容を理解し、生活に役立ててもらっている。

#### 【今後の取組】

- \*年間開催回数を4回程度に増やす
- \*受講人数を20人程度から40人程度に増員する
- \*住民のニーズに沿った講座内容を考え実行する

### 2) 人権標語募集及人権啓発及び広報紙「こころ」の発行



人権啓発講座

### 【現状】

人権に関する身近な作品や活動の紹介、人権標語を考えることによって、身近な人権問題に気づき、人権意識を育て、地域住民の人権啓発及び人間関係の向上を図っている。

### 【今後の取組】

- \*年1回、A4版の裏表印刷・人権啓発「こころ」の発行継続
- \*地域住民及び小学生に呼びかけ、掲載する原稿を依頼

## 情報社会に照らす、人と人の協創

### 広報部

地域情報の発信を重点課題とし、地域の特色を全面にだし、幅広いコミュニティ活動を発信するためにも、情報発信拠点とし、地域活動の推進をはかり、活力あるまちづくりをコミュニティ誌及びホームページにより発信していく。

### 1) 広報紙「ともしび」の発行

#### 【現状】

地域の情報、課題、コミュニティ活動、まちや人が元気になる知恵や方法、文化などを活字で届けている。人と人のつながりの大切さを感じ、地域での生活をベースにした情報を、世代を超えて広く活用してもらうことを願い、「ともしび」の企画、編集を行っている。

#### 【今後の取組】

- \*年4回の発行を年6回に増刊
- \*半面カラーから全面カラーに変更
- \*情報社会に照らした広報活動のあり方を検証

- \*アンケートの意見を集約して編集内容を再検討



ともしび配付作業

## 運動で、人が輝く文化都市

スポーツを通して高齢者から子どもまでが楽しむことにより、こころとからだの健康を図り、地域の連帯感を深め活性化をはかる。

### 1) スポーツを通じて健康なまちづくり

#### 【現状】

現在、社会において多くの方はさまざまなストレスに囲まれて生きており、心の癒しを求めている。少子高齢化の時代を迎えた今、市民文化活動やスポーツ、レクリエ

ーション活動を通じて、生き甲斐を感じ、豊かで健康な生活を送るための施策が求められている。生涯スポーツを通じた人々の交流によって、健康の維持・増進やレクリエーションを目的に「誰もがいつでも、どこでも気軽に参加できる生き甲斐スポーツ交流」の輪が大きく広がることを願っている。

**【今後の取組】**

- \*親子三世代での健康ウォーキングの実施
- \*土器川河川敷、堤防等を利用したサイクリングの実施
- \*親子三世代による運動場や地域の広場でのラジオ体操の実施
- \*桜の時期の家族ハイキング及び紅葉の時期の登山の実施
- \*老若男女によるペタンク大会の実施
- \*東汐入川緑道公園を活用して、体力づくりの実施



ラジオ体操

**女性の力で安全安心な地域社会の創造実現を目指す**

**城北婦人会**

地域の婦人を組織化して、目的に沿った奉仕活動及び研修活動を実施し、高齢化社会での福祉、環境や食生活の問題解決、青少年の健全育成について、婦人力で支援するとともに、個人の識見の向上にも努める。

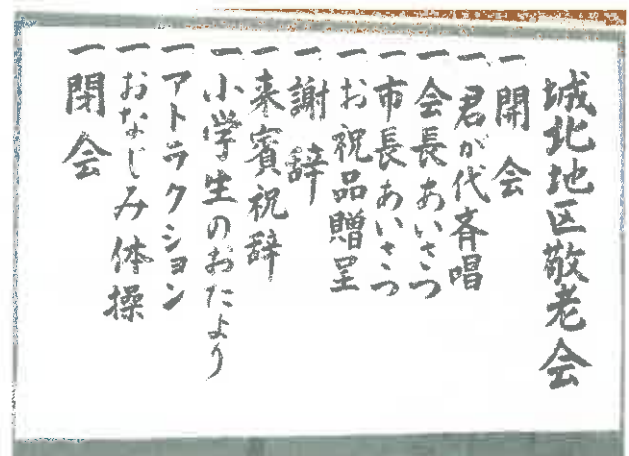
**1) 婦人会の組織化と奉仕・研修活動**

**【現状】**

城北婦人は約250人で組織されており、活動としては敬老会の実施・日赤社資募集・婦人クラブ活動・防犯パトロール・親睦研修会等の行事を実施している。

**【今後の取組】**

- \*会員の増員に努める
- \*高齢化社会での福祉環境、食生活の改善を図る
- \*青少年の健全育成に婦人会として支援するとともに、個人の識見向上にも努める
- \*研修内容の工夫と参加者の拡大を図る



城北地区敬老会



## 老人福祉法の理念に基づき、地域老人の福祉増進を推進する

### 城北老人会

地域の老人を組織化して、目的に沿った活動を行い、個人のこころや体の健康づくり、会員相互のふれあい活動、地域社会への奉仕活動に努める。

### 1) 老人会の組織化と奉仕・研修活動

#### 【現状】

城北老人会は11クラブ、約600人で組織しており、活動内容としては年2回の歩け歩け運動の実施、防犯パトロール活動、子ども見守り活動、年3回の城北老人だよりの

発行、親睦研修会等の行事を実施している。

#### 【今後の取組】

- \*個人のこころやからだの健康づくり
- \*会員相互のふれあい活動の推進
- \*地域社会への奉仕活動の充実
- \*会員増員への努力
- \*研修内容の工夫と参加者の拡大



歩け歩け運動



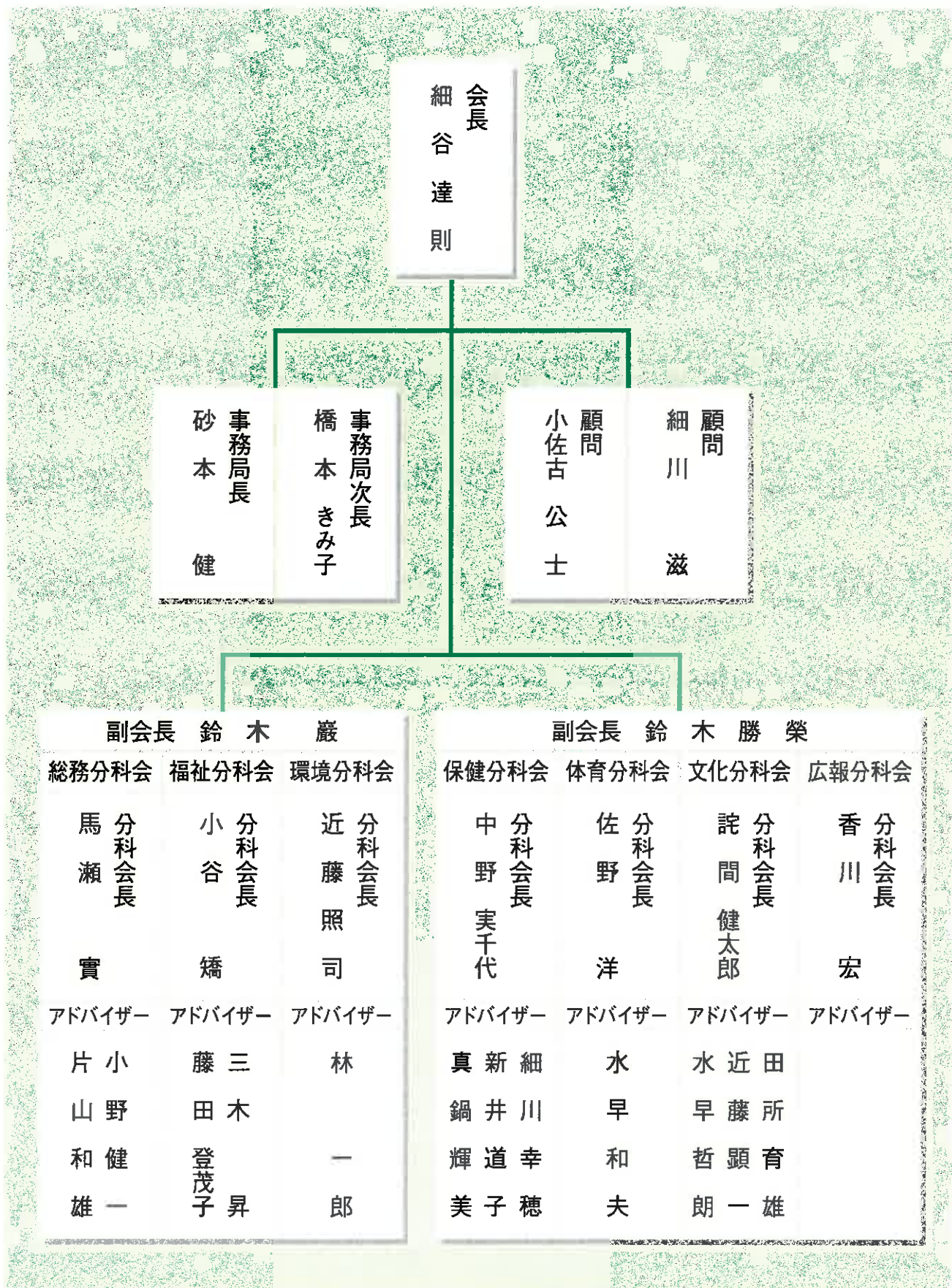
老人会

## まちづくり計画策定にあたって地域の人達からだされた意見

- 1) 地域の自然や歴史、文化、各町の現状を取り上げ、それを踏まえたうえで、城北地区の将来像や各部会の今後の取組み、あすの城北地区の姿などを盛り込んではどうか。
- 2) まず全体構想を取りまとめ、基本構想を策定、具体的な取組みなどについて順次、話し合いを進めてはどうか。
- 3) まちづくりを考える上で道路の問題を抜きに出来ない。災害時に避難し易い道、お年寄りや子どもたちが安心して歩くことができる障害物の少ない道にする一方で、城下町の伝統を今に伝える歴史的な道を残すことも重要だ。
- 4) 渇水対策として雨水を活用したり、車の不法駐車を追放するために車庫を設置し、樹木の生垣を設けたり、安全安心に通じる家を検討してはどうか。
- 5) 家を建てる段階から、地震対策防犯対策、防火対策、水害・高潮対策を検討する。
- 6) 防災や防犯対策の中でできることから取り組む。
- 7) 災害時には医療面の対応が重要となる。地域内での医療機関の現状を調査し、住民に対するAEDや人口呼吸法などの講習会を開催。

城北地域は丸亀城築城時からの歴史あるまちです。その起こりを踏まえたうえで、子や孫の笑顔が絶えない「明倫の里 城北」にふさわしい明日のまちづくり計画を策定していきたい。

## 城北地区まちづくり計画策定委員会組織図



## 城北地区まちづくり計画策定担当者

氏名	役職名
秋山 祥子	城北小学校PTA
網谷 徳子	コミュニティ保健部員 愛育班
新井 道子	前土居保育所所長
和泉 元一	コミュニティ体育部員
馬瀬 實	コミュニティ総務部長
大川 潮子	コミュニティ文化部員・前広報部長
岡上 紗与	保健師
小野 健一	前丸亀市議副議長
香川 宏	コミュニティ広報部長
片山 和雄	コミュニティ所長
河原美智子	コミュニティ体育部員
北本多壽子	コミュニティ監査
小佐古公士	前丸亀市教育委員長
小谷 矯	コミュニティ福祉部長
近藤 顕一	コミュニティ広報部員
近藤 照司	コミュニティ環境部長
佐野ルイ子	コミュニティ総務部員
佐野 洋	コミュニティ体育部長
塩田 文江	コミュニティ総務部員
島 清則	コミュニティ総務部員
鈴木 巖	コミュニティ副会長
鈴木 勝榮	コミュニティ副会長
砂本 健	コミュニティ事務局長
高木 明美	コミュニティ広報部員
高木 富子	コミュニティ福祉部員
詫間健太郎	コミュニティ文化部長
武上サチ子	コミュニティ福祉部員
竹田 早苗	コミュニティ環境部員
田所 育雄	前城北小学校校長
塚本 知江	愛育班
津治 義秀	コミュニティ監査
直井 茂貴	子供会
中野実千代	コミュニティ保健部長

氏名	役職名
中野 裕子	コミュニティ保健部員 愛育班
中林 章子	愛育班
橋本きみ子	コミュニティ広報部員
林 一郎	前コミュニティ環境部員
福岡 俊子	コミュニティ書記
福岡一二美	コミュニティ体育部員
藤田 高明	前城北小学校PTA会長
藤田登茂子	老人会副部長
藤原 豊	コミュニティ環境部員
細川 滋	香川大学副学長
細川 幸穂	城北幼稚園園長
細谷 達則	コミュニティ会長
松井 功	コミュニティ環境部員
松下 幸	前平山保育所所長
松永 眞三	城北小学校PTA
松原 繁	コミュニティ福祉部員
真鍋 輝美	平山保育所所長
丸岡 勇	コミュニティ福祉部員
三木 昇	元丸亀市社会福祉協議会事務局長
水早 和夫	前コミュニティ体育部長
水早 哲朗	城北小学校PTA会長
三野満里子	コミュニティ福祉部員
宮川恵美子	コミュニティ保健部員 愛育班
八十 敏二	コミュニティ福祉部員
山倉有美子	前土居保育所所長
山崎 隆史	コミュニティ総務部員
山崎 裕子	コミュニティ福祉部員
山地 英子	コミュニティ保健部員 愛育班
横山 俊男	コミュニティ会計
若松 和男	アドバイザー
若松美都子	コミュニティ福祉部員
若松 幸代	コミュニティ環境部員
渡辺 昭	コミュニティ総務部員

コミュニティ  
「明倫の里 城北」

構成団体

城北地区連合会自治会	保護司
城北婦人会	城北地区子ども会連絡協議会
城北老人クラブ連合会	スポーツ少年団
城北地区民生委員児童委員協議会	丸亀市立東中学校
城北地区福祉ママ会議	丸亀市立城北小学校
丸亀市体育協会城北支部	丸亀市立城北幼稚園
丸亀交通安全協会城北支部	丸亀市立平山保育所
城北母子愛育班	丸亀市立土居保育所
城北地区社会福祉協議会	丸亀市立城北小学校PTA
丸亀市消防団第一分団	丸亀市立城北幼稚園PTA
丸亀市更生保護女性会	丸亀市立平山保育所保護者会
母子保健推進委員	丸亀市立土居保育所保護者会
食生活改善推進協議会	丸亀署土器交番・駅前交番
丸亀市漁業協同組合	城北コミュニティセンター

(順不同)



---

明倫の里 未来へ向けたまちづくり

平成23年5月発行

発行 明倫の里 城北

城北コミュニティセンター内

〒763-0014 香川県丸亀市御供所町1-5-20

TEL・FAX(0877)25-2141

---